

香取市国際交流協会通信

Katori International Friendship Association
(KIFA) NEWS

新型コロナウイルスと闘って マスク着用や他の規制廃止によって コロナ感染はインフル並みの扱いへ

2020年1月16日に新型コロナウイルスの国内初の感染者が確認されて、4月に第一波、8月に第二波が来て東京オリンピックが一年延期となりました。

香取市の感染者数は、千葉市や常磐線沿線の都市と比較して少なく安心はしていましたが観光客の足はピタリと止まり、伝建地区の人通りはゼロに近い状態でした。

第三波に入った2021年1月には、医療従事者・高齢者へのワクチン接種が開始されて、感染者数はしばらく下降しましたが、変異株アルファ株の出現で5月には第四波、8月には重症化しやすいデルタ株が流行した第五波となります。この時期になると全国の感染者数は急増して一日六千人台から二万人台となる中で、東京オリンピックが観客を入れなくて開催されました。

2022年1月からは第六波となり、死者数・感染者数は格段に増加しました。

香取市の感染者数も急拡大して第七波に突入した夏季には、学校や特に高齢者施設でクラスターが発生し、感染者数は延べ千名台からたちまち四千名台～五千名台にも達しました。

国内の感染者は一千万人台に達し、統計の労力は治療現場を圧迫しているとして、2022年の夏には、感染者の「全数把握」の簡略化が実施され、国際的な人流を抑える水際対策が緩和されました。

今年、全国の感染者は減少する兆しを見せず、第八波の2022年11月～2023年1月にかけては、国内感染者数は延べ三千万人、死者数はコロナ発生以来の総数六万人の内、昨年末から1月にかけてのたった一か月で一万人にも上りました。結果的に、コロナ禍の3



第二波の香取街道 2020.5.14.



樋橋の落水の音だけが響く 2020.5.15.

年間で、統計上で予想されていた年間の死者数を13万5千人も上回ってしまいました。しかし、人流の抑止や隔離政策は経済上大きな停滞を招くとして、日本も世界の各国に準じてワクチンの接種の推進とマスクや手洗いの励行を「国民一人一人の心構え」としつつ規制解除に踏み切ったのです。

インフルエンザ並みの扱いとは言っても安心はできません。令和5年の夏に向かって、じわじわと感染者数は増えて、第九波への突入も視野に入ってきています。

～限界自治体に認定された香取市のこれから～

2020年の国勢調査の結果を受けて、総務省が人口減少率などから新たに全国885市町村を「過疎地域」に2022年4月1日付官報で公示しました。2021年時点では820でしたが65の市町村が追加されたわけです。千葉県内では九十九里町（全部過疎）の他に一部過疎指定が香取市、匝瑳市、山武市、いすみ市です。

佐原の伝建地区に待望の人出が戻る

昨年末から佐原の伝建地区の中心にある「忠敬橋」の拡張・補強工事が始まっています（下写真左）。これは香取街道沿いの電線地中化の電気・上水道管の移動に伴っての「忠敬橋」の拡張工事です。完成すれば、景観だけでなく舗道の拡張によって観光客や歩行者の安全にも配慮されています。

3月12日（日）には、待ちに待った「さわら雛舟春祭り」が行われて、小野川沿いの伝建地区に沢山の観光客が戻ってきました（下写真右）。



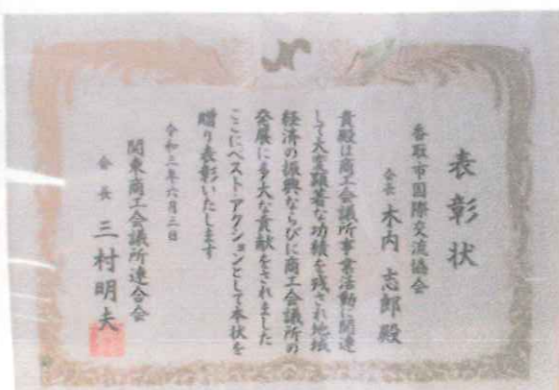
関東商工会議所連合会と香取市から表彰される

香取市国際交流協会・木内志郎会長が「商工会議所事業活動に関連して大変顕著な功績を残され、地域経済の振興ならびに商工会議所の発展に多大な貢献をした」として、関東商工会議所連合会よりベストアクション賞を授与されました（令和4年3月15日、既報）。

さらに、香取市国際交流協会が「市民の社会生活の向上および市勢の発展に尽力され、市民の模範となるべき功績があった」として、令和4年3月15日に香取市より感謝状を授与されました。



木内志郎会長



関東商工会議所連合会より

新型コロナウイルスと闘って

言語学習部会

新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく休止の期間がありました。

日本語講座は毎週木・日曜日に佐原中央公民館とコンパスで開催してきました。また、法人向けの外国人研修生を対象にした日本語講座を試験的に開催しました。

中国語教室・太極拳は毎週土曜日に佐原中央公民館とコンパスで開催しました。

令和4年9月～10月まで、日本語ボランティア養成講座を開催しました。

コロナ後の活動

沖 祝子

新型コロナ感染症も3年目になり、そろそろ元の生活に戻れるのではないかと期待しつつ過ごしてきた一年でした。

日本語ボランティアは、スタッフが6～7名で常時活動しています。しかし、残念なことに、外国人の学習者の数が減ってきています。三月の日本語スピーチコンテストに出場する予定であった学習者の場合、当日は会社の研修があるという理由で、残念なことに出場できませんでした。川向こうから、また山田地区からなど、遠くから通う生徒の場合には、1～2回で来なくなってしまふことが多々あります。

この状況を何とかしたいと思って、2023年5月から山田公民館でも日本語教室を開くことになりました。また、日曜日と木曜日にコンパスで行っている日本語教室以外に、企業に出向いて教えることも試みています。

香取市市民協働課の皆様にはいつも相談



日本語出張講座の様子

に乗っていただき、ただただ感謝しかありません。外国人生活者の日本での生活が、問題なく、しかも楽しく、有意義になるように、少しでもそのお役に立てることを願って、今後とも活動を続けていくつもりです。



コンパスでの日本語学習



山田公民館で日本語学習

通訳ガイド・ボランティア部会

令和4年度の事業

- ・7月15日（金）～17日（土）佐原の大祭夏祭り 通訳ガイド
- ・9月23日 淑徳大学講師等 通訳ガイド
- ・10月7日（金）～9日（土）佐原の大祭秋祭り 通訳ガイド
- ・11月12日 錦鯉国際品評会 通訳ガイド
- ・11月27日 ふるさとフェスタ ユネスコ協会協力
- ・IESAbroad 留学生 通訳ガイド
- ・11月29日 ワールド航空サービスツアー
- ・12月11日 ICN 東京ツアーガイド

令和5年

- ・3月2日 関東商工会議所連合会 ツアーガイド
- その他の事業
- ・定例会議（月一回）
- ・市民を対象とした日常の英会話講座 Living English in Katori を全10回開催しました。
- ・関連団体の総会等
- 5月17日 水郷三都観光推進協議会総会
- 12月3日 発酵のまち佐原講演会

2022年度を振り返って

岡澤 美奈子

2019年度の終わりから始まり、20年度・21年度とコロナウイルスのお陰でほぼ全ての活動が止まっていた時間が、やっと2022年度から少しずつ動き始めました。香取市国際交流協会の活動も今までの様な状態に戻り始めた年でした。

佐原の大祭も夏・秋ともに開催され、私達も町中に繰り出しました。久しぶりに山車が町のあちこちで曳き回され、沢山のお客様が山車を見ながら食べ歩きをしている光景を見て嬉しくなりました。

しかし、良い事ばかりではなく、22年早春にはロシアによるウクライナ侵攻が始まり、世界中が暗い重苦しい空気に包まれました。

そんな中、夏のお祭りでいつも通り外国人のお客様にアンケートをとっていた時に一つ悲しい経験をしました。私たちは外国人に会うと出身国を聞くのですが、一人の若い女性が「国名は言いたくない!」と言ったのです。私ははっとしました。彼女はロシア人だったのです。彼女のような人が肩身の狭い思いをしながら生活していると思うと胸が詰まりました。戦争という悲惨な行為は、相手の国民だけではなく、自国民をも辛い思いにさせてしまうのだ・・・と。

一年を通して、市民対象の英会話研修リビング・イングリッシュは計画通りにやり通しました。グラント先生をはじめ交流員のテイさんとサムさんにも参加してもらいました。参加者の皆さんも楽しく有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。相変わらず出席率の高い研修になりました。皆さんが楽しそうに英会話の練習をする姿を見て、私達も大きな力をもらいました。来年もテキスト作りから始まり十回の研修をやり通すぞ!という気力が湧いてきました。

22年度の行事も終盤になった23年3月には、4年振りに日本語スピーチコンテストを開催することが出来ました。コロナ前の昼食を含んだ運営から、飲食をなくして午後の3時間という短い時間帯で行いました。どうにか形だけでもコンテストを開催できて、本当に良かったと思いました。

今回の日本文化体験は、何度も討議を重ね

た結果、お茶からフラワー・アレンジに変更した形式にしたところ、幸いにも、大量の生花の提供があって、お客様には大変喜んでいただけました。

22年度は、コロナ禍とはいえ、少しずつ日常に戻るための助走期間であったと考えています。23年度は、活動的にはほぼコロナ前に戻ると思われますので、3年半以上のプランクを埋める覚悟で、この一年間を楽しくアクティブに活動に向かい合いたいと思っています。

世界状況が落ち着かない中、香取市を訪れる外国人と市民レベルの国際交流を深めていけるよう頑張りたいと思います。



関東商工会議所連合会ガイド 2023.3.2.



夏・佐原の大祭・通訳案内



熱心に取り組む英会話学習

交流部会

令和4年5月14日(土)に英語でウォーキング。小野川沿いを散策。佐原三菱館および五月人形巡りを実施。

10月29日(土)ホストファミリー交流会。ホストファミリーに興味のあるご家族や受け入れ経験のあるご家族との交流会を開催しました。

12月10日(土)英語でクラフト。英語を楽しみながら切り絵を体験しました。

令和5年1月28日(土)水郷小見川青少年自然の家主催の「英語でバレンタイン」に協力しました。

3月5日(日)KIFA国際交流パーティー2023を4年ぶりに開催しました。内容を縮小して各部会と合同開催。日本語スピーチコンテスト、日本文化体験など。その事業。ホームステイ受け入れサポート(令和4年度は実績なし。)

'Back to Normal' or 'New Normal'

川上 みちよ

令和5年になりました。令和の時代の大半をコロナ禍で過ごした私達は、今後、元の状態に戻れるのでしょうか。New Normalという言葉も頻りに聞かれる中、そもそもの通常が変化しているのも事実だと思います。一人一人が新しい状況を通常とする。それもまた良い事だと感じています。

交流部会は、昨年度予定した行事をすべて開催することができました。まず、総会前に、三菱館と五月人形めぐりをテーマに「英語でウォーキング」を行いました。

10月には、新しい企画として、ホストファミリーを募集するための交流会、12月には、恒例となっている干支をモチーフにした切り絵の「英語でクラフト」を開催しました。

念願だった国際交流パーティーは、三度の



卯年の切り絵に挑戦 2022.12.10.

中止を経て、ようやく開催することができました。

また、KIFAの主催行事ではありませんが、令和2年度より、水郷小見川青少年自然の家主催の国際交流行事に協力しています。前年度企画したまま中止となっていた「英語でヴァレンタインデー」も無事に開催することができました。

さて、交流部会の今年の目標は「お茶を楽しむ会」の復活です。新しい日常は受け入れつつ、より良い形での「お茶を楽しむ会」の開催を目指したいと思っています。

交流部会事業報告

○英語でウォーキング

～三菱館と五月人形～令和4年5月14日
4月に耐震・復原工事が完了した三菱館で大正3年当時を思わせる内装や、防火シャッター等の細かい部分を、英語の表現を確認しながら見学しました。その後の五月人形めぐりは、町並み交流館、福新、まちや館、正上のコースを歩きました。

○英語でクラフト(切り絵)

令和4年12月10日

新しい年を迎える準備として、次の年の干支を題材に切り絵の作品を作る「英語でクラフト」。今回は卯(うさぎ)を作りました。

野口正博先生が、毎回、初心者でも作れる型紙を用意してくださいます。切り絵に集中すると英語はなかなか出てきませんが・・・

○ホストファミリー交流会

令和4年10月29日

交流部会の通年事業として「ホームステイ受け入れサポート」があります。残念ながら、実際の受け入れは、長い間実現していませんが、昨年香取市とサイパン市との間で、姉妹都市協定が締結されたこともあり、今後、国際的な交流の機会も増えるものと予想されます。

これをふまえ、昨年10月29日に、ホストファミリー交流会を開催しました。ホストファミリー経験者をゲストにお招きし、参加者の方々と自由に話をさせていただきました。ご家族での参加もあり、受け入れの際に心配なことを具体的に質問されていました。経験者からは、言葉が通じないことや習慣の違いを知ることも受け入れの楽しみになるというお話をいただきました。将来の機会に備え、

ホストファミリーの輪を広げていきたいと思ひます。

○英語でヴァレンタインデー

令和5年1月28日

水郷小見川青少年自然の家の主催事業に参加協力しています。交流部会の事業にいつも参加して下さるリチャード先生を講師にお迎えして、小学生親子がカード作り、歌、ゲームを通して、イギリスのヴァレンタインデーについて学びました。

○KIFA国際交流パーティー

令和5年3月5日

4年ぶり開催となった国際交流パーティーは、午後開催で時間を短くし、お茶の体験をフラワー・アレンジにするなど、工夫をして行いました。日本語スピーチは、日本語教室の生徒さんに加え、香取市の国際交流員の



パーティー参加者全員で記念写真



フラワーアレンジに取り組む



小学生も書道に熱心に

お二人にもゲストで参加してもらい、あたたかい雰囲気になりました。

コロナ禍の一年間

吉川 玲子

3年余りにもなったコロナの影響で、外国人観光客の足は遠のき、ボランティア活動も困難になりましたが、そんな中でも細々と活動を続けました。

市民対象のリビング・イングリッシュ講座、干支の切り絵体験、水郷青少年自然の家の行事の手伝い等を継続して取り組みました。佐原の大祭が復活し、日本在住の外国人との触れ合いに少しずつ希望が湧いてきました。

特に、年間11回行われたリビング・イングリッシュ講座には、マスク着用での仲間との英会話、外国人講師と香取市役所の外国人スタッフとの交流は活発な意見交換もあり、なんとか継続できたのは大きな成果でした。ウォーキング・トーキング・ツアーではリニューアルされた三菱館見学・お茶会、次年度の干支の切り絵体験教室は自作の切り絵を家に飾れる喜びもあって参加者は笑顔一杯で記念写真におさまりました。

国際交流協会のメンバーとして、自分のスキルアップのための月例の英会話、リビング・イングリッシュ講座のための教材作成、案内のための研修の活動も20年となり大きな節目を迎えることとなります。

「継続は力なり」の言葉通り、少しでも前に進んで来られたのは仲間同志信頼と強い絆があったからだと思います。

サイパン市との姉妹都市も決まり、今後は相互の交流が盛んになることが期待されます。少しでも、お手伝い出来るように頑張る所存です。

久しぶりの外国人の案内

商工会議所の依頼で、佐原の馬場酒造の発酵に関する工場見学希望の外国人10名ほどのツアーガイドを私達4名が担当しました。見学の目的は、日本の酒や味噌の発酵の過程を実際に見たいとのことでした。

酒造会社の女性スタッフの詳しい説明をKIFAの代表が英訳し、質疑応答ありの充実した見学でした。

他のメンバーにも質問があり、見学後の酒や味噌の試飲、土産の購入が終わった後、町並みの観光に移りました。

観光船でコタツに入って、空を眺めながら歩くのとは違った町並みを堪能した後は、レストランでの昼食になりました。4人ずつのテーブルに分れて会話を楽しんだ後、シェフから地元の食材を使った料理について詳しい説明を受けました。

伊能忠敬旧宅、ジャージャー橋、町屋館(休憩)、正上、並木和紙店、醤油アイス、植田屋、大高茶店でショッピングを済ませて、高速バス停でお別れしました。

醸造や料理などの専門用語の必要性をしみじみ感じたツアー案内でした。

令和4年度の活動

安藤 登志子

今年度も前半は、相変わらずのコロナ禍で、海外では移動やマスク着用が緩和されてきていたのに、日本では出入国を制限していました。そのため、通訳ボランティア部会は、開店休業状態が続いていました。

しかし、3年ぶりに佐原の大祭が復活して、賑わいが戻ってきました。

インバウンドは、まだまだの状態なので、私たちの活動の場は少ないのですが、コロナ前の状態に徐々に戻りつつあるのはとてもうれしいです。

次年度は、本来の活動ができるようになることを期待したいと思います。

①リビング・イングリッシュ

香取住民対象のリビング・イングリッシュは、コロナ禍の行動制限の間も、感染予防対策をしながら大過なく開催できたことは、大変喜ばしいことでした。年々受講される方々が、この講座に楽しんで参加しつつ、英語会話力も上達してきています。

ますますのスキルアップを目指したいと思います。

②国際交流パーティー

4年ぶりに国際交流パーティーが、縮小して開催されました。例年と形が違うので、少し戸惑いましたが、何とか成功したのではないかと思います。来年度は、普通の状態で開催できることを期待しています。

③外国人のツアーガイド

3年ぶりに海外の方々のガイドをしました。少しドキドキしましたが、とても楽しくて幸せな気分でした。皆さんに満足していただけたようでほっとしています。

これからインバウンドの増加で、ツアーガイドが徐々に増えてくることを期待しています。

総務研修部会

令和4年度

5月23日(月) 正副部会長会議

7月1日(金) 理事会・定期総会

香取市国際交流協会通信 Vol.22

の発行

その他の事業 協会ホームページのコンテンツを随時更新しています。

忍耐の精神で難局を乗り切ろう

新井 勝治

来年度は、香取市国際交流協会が発足して20年目を迎えますが、その直前の3年間で新型コロナウイルスのパンデミック発生によって、世界中が歴史的な人的交流の停止状態にはまってしまいました。

しかも、これに便乗するかのようにロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。かつての同胞が自由な西欧社会へ傾斜していくのを恐れての侵攻なのでしょう。話し合いではなく、暴力で相手を威圧しようとする「戦争」はこの地球上からなくさなければなりません。

これからは、香取市は人口減少・少子化という難問を抱えることとなりますが、伊能忠敬の忍耐の精神に学んで乗り切っていかなければならないでしょう。

町並み案内再開

篠塚 登志子

コロナ禍により外国人の案内がめっきり減少したまま三年が過ぎました。そんな中、去る3月、日本人観光客ながら60人以上の団体客の案内の依頼が入りました。久しぶりの案内で、前日に説明する内容を思い出して

練習しながら望みました。

お客様も旅行に飢えていたらしく、山車会館、町並み歩き、舟めぐり、千与福での昼食、忠敬会館など心ゆくまで佐原観光を楽しまれた様子で、私も一緒に一日たっぷりとお楽しみさせて頂きました。お帰りになる頃にはほろ酔いの方も多く、お土産などをどっさり買われてバスに乗り込まれました。

「やはり、案内は楽しいな」と感じた一日でした。

長い3年間でした

田中美穂

本当に長い3年間でしたね。KIFAの活動を支えてくれている皆さんに「これからも以前と変わらず一緒にがんばっていきましょう」とエールを送ります。

KIFAの恒例であったイベントがすべて中止になっていたのですから。

2019年12月初旬の中国武漢から始まった新型コロナ感染症は、わずか数ヶ月の間に世界中に拡散しました。

成田空港は一日平均12万人の利用客がいましたが、2021年(令和3年)にはほぼ100%減になりました。

約5万人が働いていた空港は、免税店、飲食店、おみやげ店、コスメティック店、薬局などの数店を残して閉店してしまい、親しかった沢山の人が次々にいなくなりました。空港駅も閑散として、ひと気がまるでなくなり、空港内をどこまでも真っすぐ歩けるようになり、まるでGhost Townのようになってしまいました。

2020年4月からは、帰国者全員に対する検査が始まり、検疫官、航空会社のスタッフ、警備の方々、そして旅客の皆さんも含めてストレスが募る日々が続きました。空港内で働く人たち全員が疲労困憊の状況でした。

2023年4月29日午前0時をもってワクチン接種証明書または陰性証明書の提出が不要となりました。旅客便が増えて、また人々が空港に戻って来ました。現在、空港内のお店は、ほぼ全てが開店しています。成田空港駅も混雑して、真っすぐ歩けなくなりました。

悪夢のような3年半・・・まるで現実感がありません。雑踏の中にいると、本当にあんな

なことがあったのかと、まるで幻を見ているような気分になるのです。

今年は、4年ぶりに、国際スピーチ大会が開催できました。また、数々のイベントのスケジュールも決まっていって、明るい仲間たちと一緒にKIFA活動が出来ることもとても嬉しいです。気持ちを新たにして頑張りましょう。この3年間、共に辛抱してきた全ての人々に「お疲れさま」でした！



国際交流協会事務局

根本・会田

新型コロナウイルス感染症の発症から約3年半が過ぎ、感染症法上の位置づけも変更され、徐々に日常がコロナ前の状況に戻りつつあります。

来年度は、国際交流協会が設立して、20年目の節目を迎えます。

コロナ禍でも辛抱強く活動を続けてきたいただいた役員の方、また各事業に参加していただいた皆さんと一緒に、記念すべき20年目の年に向けて、一段と気を引き締めながら国際交流事業に取り組んでいきたいと思っております。事務局といたしましても出来る限りの協力をさせていただきたいと思っておりますので、会員の皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

香取市国際交流協会・事務局

Katori International Friendship Association

〒287-8501 香取市佐原口 2127

事務局：香取市市民協働課

Tel.0478-50-1261

Fax 0478-52-4566

Email:shimin10@city.katori.lg.jp